山口県農林総合技術センターだより

グリーンウェーブ

57号
令和８年(2026年)２月
編集・発行
山口県農林総合技術センター

活力を創出する新技術開発・人材育成などの取組を紹介

「西京の夏雪（なつゆき）」、「西京の夏鈴（かりん）」が新品種として登場！ やまぐちオリジナルリンドウ「西京シリーズ」がさらに充実

▲「西京の夏雪（なつゆき）」

当センターでは、収益性の高い花き品目として、温暖な県内全域での栽培に適したオリジナルリンドウの品種育成に取り組んでいます。

これまでに育成した「西京シリーズ」は、全国に先駆けて出荷できる極早生品種「西京の初夏」をはじめとする５品種により、５月下旬から１０月までの長期リレー出荷体制を確立しました。いずれも既存品種より高品質で、耐暑性・耐病性に優れ、安定生産が可能です。

このたび、これらのラインナップをさらに充実させるため、新たに２品種を育成しました。「西京の夏雪（なつゆき）」はシリーズ初の純白極早生品種で、６月中下旬の出荷を担います。一方、「西京の夏鈴（かりん）」は、リンドウの最需要期であるお盆の時期に出荷可能な青紫系で、既存の主力品種を上回る多収性が期待されます。

今後、これらの品種の普及を進め、市場の多様なニーズに対応することで、県内リンドウ産地の活性化を図ってまいります。

▼「西京の夏鈴（かりん）」

〔農林業技術部　花き振興センター〕

＜主な内容＞

「西京の夏雪」、「西京の夏鈴」が新品種として登場！　農林業技術部 花き振興センター

◇各部の取り組み

１０年間で難防除雑草の帰化アサガオ類が急速に拡大　農林業技術部 農業技術研究室
“いままでにない初めての食感!!”「堅（けん）しろう」が新登場！　農林業技術部 農業技術研究室
早期落葉を引き起こすダイズ褐色輪紋病の防除体系　農林業技術部 環境技術研究室
農業大学校がＪＧＡＰ審査を受けました！　農林業担い手支援部 学生支援課（農業大学校）
リカレント研修で、高度な技術を身に付けた指導者を育成！　農林業担い手支援部 社会人研修室
アプリ導入で預託牛管理の事務作業を効率化！　畜産技術部 育成業務課

10 年間で難防除雑草の帰化アサガオ類が急速に拡大

当センターでは、約 10 年ぶりに長門地域の大豆ほ場における雑草の発生状況を調査しました。発生が確認された主な雑草は、従来からあるイヌビエ、メヒシバおよびタカサブロウ類に加えて、帰化植物の帰化アサガオ類、ホソアオゲイトウおよびヒロハフウリンホオズキでした。

発生割合が最も高かったのは帰化アサガオ類で、前回の調査に比べて 30 ～ 40 ポイント増加しました。また、前回は未確認であった生産者のほ場でも発生が確認され、急速に拡大していることが明らかになりました。

帰化アサガオ類は熱帯産で、つる性で大豆に巻き付くため防除が困難な雑草です。生産者への防除に関する聞き取り調査からも、このことが判明しました。

このため、現在、除草剤を使用した対策技術の確立を目指して試験を行っています。帰化アサガオ類の発生は、私たちの身近な道端、河川敷や線路沿いにも拡大しているため、その動向には注意が必要です。

〔農林業技術部 農業技術研究室〕

“いままでにない初めての食感!!”
さわやかな甘さの美味しいイチゴ「堅（けん）しろう」が新登場！

年内から本格的な収穫が可能で、収穫量が多く、見た目も良く、美味しい西日本のブランドイチゴ品種の開発を目指して、平成 28 年から複数の機関と共同で品種開発に取り組み、「堅（けん）しろう」というユニークなイチゴ品種を育成しました。

上記の開発目標を完全に満たした「堅しろう」は、他のイチゴ品種と大きく異なるユニークな特長があります。それは果実の硬さです。この硬さにより、果皮が傷みにくく日持ち性や輸送性に優れるため、冬期から春先まで完熟での収穫・出荷が可能になります。

栽培中の「堅（けん）しろう」：草姿とその果実▶

▲「堅しろう」果実の外観とその断面（左）パック詰め（右）

その他にも優れた特長として、「年内から収穫できるためクリスマス需要に対応できる」、「脇芽等の発生がほとんどないため栽培管理に手がかからない」、「糖度が高く食味が安定して美味しい」など、生産者にも消費者にも嬉しいメリットがあります。

この「堅しろう」は、令和６年に品種登録出願しました。今後、令和８年から苗の販売が開始される予定です。

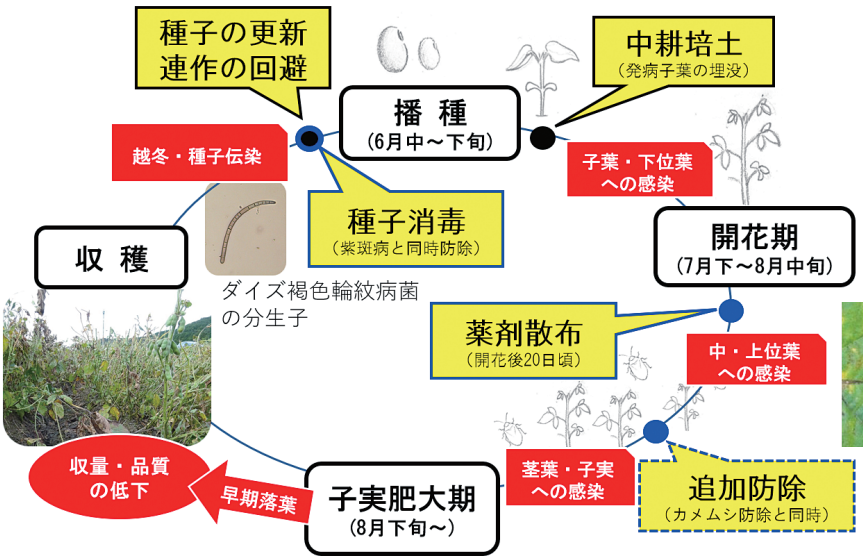
〔農林業技術部 農業技術研究室〕

早期落葉を引き起こすダイズ褐色輪紋病の防除体系

▲早期落葉したほ場の全景

県内ダイズ栽培ほ場で発生している異常な早期落葉は、ダイズ褐色輪紋病の発生が原因です。

これまで本病原菌の基本的生態はいくつか知見が得られていますが、これらの生態に基づく耕種的防除の効果や、効果の高い種子消毒剤、ほ場における効果的な薬剤の使用方法は確立されていませんでした。



▲葉の病斑

当センターでは生育初期の中耕培土による発病子葉の埋没が、初期の発病を抑制し、上位葉への進展を遅らせることを発見しました。さらに、紫斑病に登録のある種子消毒剤はいずれも本病に対して効果があることや、開花期以降のニマイバー水和剤やファンタジスタフロアブルの薬剤散布、特に開花後２０日頃の散布を含む防除体系は効果が高く、収量・品質も大きく改善することが分かりました。

加えて、ドローンを用いた開花後２０日頃と開花後４０日頃の２回防除でも、地上散布と同等に発病を抑制したことから、ドローンによる防除も省力的な防除技術として期待できます。

〔農林業技術部 環境技術研究室〕

農業大学校がＪＧＡＰ審査を受けました！

農業大学校園芸学科では、農業生産上のリスク管理を学ぶため、ＧＡＰを学修に取り入れています。

トマト・ミニトマトでは平成 31 年から、ブドウでは令和２年から、第三者認証制度であるＪＧＡＰ認証を継続しており、毎年審査を公開して受審しています。

今年は園芸学科の２年生９名が、半年間の準備を経て、令和７年 10 月７日（火）に審査を受けました。

▲審査会場の様子

▲書類審査

▲実地審査

先生や関係機関が見守る中、学生たちは担当分野ごとに入れ替わりながら、審査員の質問に一生懸命答えていました。室内での書類審査の後は、出荷調製施設やほ場などに移動して実地審査を受け、１日がかりの審査を無事終えることが出来ました。今回の審査で受けた指摘を参考に、後日ルール等の改善も行いました。

ＧＡＰの実践は地道な取組の連続ですが、今後も継続・改善することで実習などでのリスク低減を図り、卒業後の進路にも活かしていきます！

〔農林業担い手支援部 学生支援課（農業大学校）〕

熟練伐木技能者リカレント研修で、高度な技術を身に付けた指導者を育成！

▲チェーンソー実技（伐倒）

９月から 11 月の間（うち９日間）、林業事業体において伐木作業に従事する技能者を対象に「熟練伐木技能者リカレント研修」を実施しました。

この研修は、自身の伐木技術と安全意識の再確認とあわせ、より高度な技術と実力を身につけた指導者の育成を目的としています。

内容は、チェーンソー伐木技術と指導方法、伐木技能検定対策、日本伐木チャンピオンシップ（JLC）の競技種目を通じた技術・安全意識の向上などで構成しています。

このうち 11 月 11 日から 14 日においては、今年の JLC 優勝者である今井（いまい）陽樹（ひのき）氏（ひのきや代表：群馬県）を講師に迎え、JLC 競技種目のうち①伐倒、②丸太合わせ輪切り、③枝払いを通じた実技研修を行いました。

参加した６名の研修生にとっては、競技種目を反復練習することにより、伐木技術や安全意識の更なる向上に大いに役立つものとなりました。

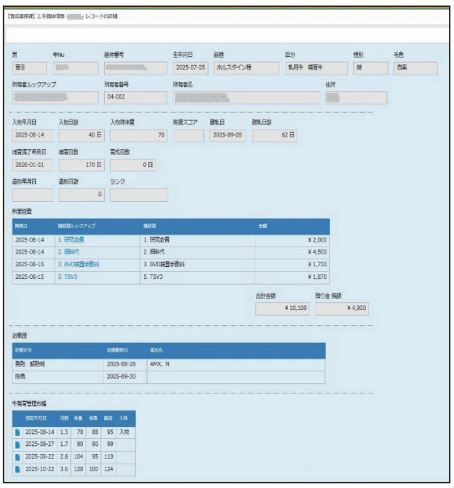
▲チェーンソー実技（枝払い）

〔農林業担い手支援部 社会人研修室〕

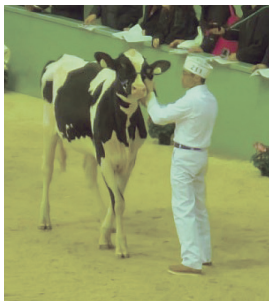
アプリ導入で預託牛管理の事務作業を効率化！

畜産技術部育成業務課では、酪農家の省力化を目的に、酪農家で生産された子牛を預かり育成しています。年間約 150 頭の預託牛の受入にあたって、牛の健康や発育、預託料金の管理など、様々な事務作業が必要であり、これまで複数の Excel ファイルで実施してきました。

今年度、事務作業の効率化を目的として、kintone を利用したアプリを作成し、情報の一元化を図りました。預託牛に関する様々な情報をアプリ内で課内共有することで、ファイルの管理や入力作業に関する手間や時間を減らすことができました。今後は、預託牛の飼養管理作業に更に注力し、生産性を向上させていきます。



▲ kintone アプリの一部



◀全日本ホルスタイン共進会 出場牛

余談ですが、令和７年 10 月 25 ～ 26 日に北海道で開催された全日本ホルスタイン共進会において、当課で育成した預託牛が山口県代表として出場し健闘しました。

〔畜産技術部 育成業務課〕

＜山口県農林総合技術センター　企画戦略部　企画・連携グループ＞
〒 747-0004　山口県防府市牟礼 10318　TEL：0835-28-1211
e-mail：a17201@pref.yamaguchi.lg.jp
URL　https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/

▲センター HP　▲担い手支援部（農業大学校）HP